

《叢智の杜》レポート 「利用者の皆様参加の防災訓練」を実施しました。

10月14日(金)、当館で今年度3回目の防災訓練を実施しました。今回は大型地震を想定しての訓練で、今まで行ってきた訓練とは違い、職員だけではなく利用者の皆様にも参加いただきました。ご参加いただいた方の中には、3月11日の東日本大震災当日も当館を利用していたという方もおり、皆真剣に取り組んでおられました。

参加者の感想の中には「実際に非常階段を利用しての避難を体験することができ、今後図書館に来館したときに何があっても大丈夫という安心感をもちました。とてもよい経験をさせていただきました。」「このような訓練は非常に大切かつ利用者にとっても有り難い事だと思います。」といった意見がありました。その反面「警報アナウンスが出てから避難誘導までの対応が遅い。対応者はもう少し大きな声及び適切な動き等を見せてもらいたい。少しリアリティさが足りない様な気がする。」「土曜、日曜など人の多い日

にやらなければ避難における最も重要な一つの集団を誘導するという訓練にならないのではないか。」といった意見もいただきました。当館ではご記入いただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の参考にしていきたいと思っております。

また、今回の訓練を活かし、今後も職員一同皆様の安全確保に努めて参りたいと思っております。

最後にご参加いただいた皆様ご協力ありがとうございました。



KOTOBA
N O
U M I

宮城県図書館だより

ことばのうみ

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 38 2011.12

特集 宮城県図書館創立130周年・青柳文庫開設180周年記念特別展 「宮城県図書館130年のあゆみ -青柳文庫とその志を引き継いで-」

10月5日に再開した南三陸町図書館でのひとこま



図書館からのお知らせ INFORMATION

「3.11 東日本大震災」関連の記録や資料をご寄贈ください。
宮城県図書館では「東日本大震災」の記録や関連資料の収集に努め、「東日本大震災文庫」を設けて、皆様の利用に供するとともに、永く後世に引き継いでいきます。
●**収集資料**：「東日本大震災」に関する資料全般について収集しています。
例)記録集、写真集、録画等映像資料、調査報告書、避難所だより、壁新聞、文集、イベントの配布ちらし、ミニコミ誌、学校だより、祝辞・答辞など
●**収集部数**：可能であれば3部の寄贈をお願いします。(電子データは1部で可です。)
●**寄贈方法**：ご持参いただくか、右記送付先にお送り下さい。郵送の場合、送料はご負担いただけますようお願いいたします。なお、ご

寄贈の際は、「東日本大震災関係資料送付書」(当館ホームページからダウンロード可)を記入し、資料と合わせて送付願います。
●**留意点**：ご寄贈資料の取扱いは、図書館にご一任頂きます。予めご了承ください。
●**送付先**：〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山1-1-1 宮城県図書館 みやぎ資料室
●**問合せ先**：TEL 022-377-8483 FAX022-377-8494 E-メール：kyoudo@library.pref.miyagi.jp
特別整理期間のため休館します
蔵書の所在や状態を点検するため、下記の期間休館します。利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。
●**期間**：平成24年1月26日(木)から2月1日(水)まで

表紙エッセイ 著者紹介

さとう宗幸 (本名:佐藤宗幸)、岐阜県生まれ
昭和24年1月25日生。仙台市在住。
昭和53年「青葉城恋唄」でデビュー、130万枚のミリオンセラーを記録、新人賞を初め数々の賞を受賞する。
その後、TBS金曜ドラマ「2年B組仙八先生」やNHK大河ドラマ「独眼竜政宗」で支倉常長役として出演、又、関西テレビ系ドラマ「裸の木」ではギャラクシー賞を受賞
するなど数々のドラマや映画に役者としても出演する。
現在、地元テレビ局で月曜日～金曜日の毎夕「OH!パンドス」のパーソナリティーを担当して今年で17年目を迎え、夕方の顔として若者男女から人気を博している。
今年、デビューから33年を迎えテレビ・ラジオ・コンサートに出演中。

ことばのうみ 題字 作家・高田 宏氏
本誌タイトル「ことばのうみ」は、本館第8代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代的国語辞典「言海(げんかい)」(1889～1891年刊行)に由来する。
第38号 2011年12月発行 〒981-3205 仙台市泉区紫山一丁目1番地1
TEL022-377-8441(代表) FAX022-377-8484
ホームページ http://www.library.pref.miyagi.jp/
編集・発行 **宮城県図書館**

学位取得・キャリアアップ・社会貢献…「学ぶあなた」を応援します

このたびの東日本大震災により被害に遭われた皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。
放送大学では、平成23年10月から授業科目の番組をBSデジタル放送で無料配信を開始しました(テレビ231～233CH ラジオ531CH)。
放送大学には、好きな科目を好きなだけ学ぶ課程と、大学卒業等を目指す学ぶ課程があります。
心理学・健康福祉学・歴史学・語学・社会学・経済学・文学・芸術学など、幅広い分野の300を超える科目の中から、希望する科目を「1科目」から学ぶことができます。
大学の授業料(テキスト費込み)は、半年間1科目(2単位)当たり11,000円で、登録科目数分を納入すればよいので、ムダがありません。
また、大学の入学料は、卒業を目指す課程で22,000円、好きな科目を学ぶ一年間の課程で8,000円、半年間の課程では6,000円です。
例えば、卒業までの124単位を修得の場合の入学料・授業料の合計は約70万円で、学費の負担が少なく、とても経済的です。
放送大学宮城学習センターでは、様々な目的で、幅広い世代や職業の約2,000名の学生の方が、自分のスタイルで学んでいます。
入学のチャンスは年2回、4月と10月です。詳しくはお気軽にお問い合わせください。
オープンキャンパス
平成24年1月14日(土)・2月18日(土) 各回13:30～(参加受付13:00～)
(参加無料・定員各回50名(申込先着順))
公開講演会「健康長寿の処方箋：さらば生活習慣病」
講師 井上 正康(宮城大学理事 副学長)
平成24年2月4日(土) 14:00～16:00(入場受付13:30～)
仙台市戦災復興記念館
(入場無料・定員130名(申込先着順))
宮城学習センターの赤レンガの建物は、大正12年に開設された東北帝国大学理学部生物学教室の施設として建てられたもので、当時の仙台では珍しい鉄筋コンクリート構造の建物でした。
1科目からでも学べる 学士・修士も取得できる (お問合せ・申込先) 宮城学習センター (開設20周年)
〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1番1号(東北大学片平地区内)
電話 022-224-0651 FAX 022-224-0585
miyagi-sc@ouj.ac.jp

思い出の県図書館 さとう宗幸
授業が終わり県庁の食堂で昼食を摂る、時にはその後深い木々に包まれた勾当台公園で友人たちと談笑。別れた後に市電に乗って榴ヶ岡にある「県図書館」に…。在京大学を目指していた予備校時代の日課だった。その夏の内臓疾患が元で上京を断念することになるが、果たしてその後の仙台での大学生活があったればこそ今といえよう。
県図書館にいけば数多くの同予備校の女子生徒も来ており、何らかの接点でも得られれば…。といった思惑が無かったわけでもなさそう、が結局はなんの恋物語も生まれやなかったのである。こちらにはいささかよこしまな想いがあったも、相手になつてくれるような空気は皆無。立場を考えれば、そりゃあ当然のこと…。最近の事情はよく知りませんが、当時図書館内で席を確保することは結構大変だったと記憶している。中には朝から晩までべりついている常連の受験生。話し声も殆ど聞こえないあの空気の張り詰めたようなスペース、もう記憶は殆ど失われてしまっているが懐かしき青春時代である。45年も昔のことである。
パークタウンに住んで25年過ぎた。あの当時とは比べることも出来ないほどの威容を誇る現図書館。散歩がてらに訪ねられる私にとって、いずれ生活の大切なスポットとなりそうである。その時は一瞬の懐古を楽しもう。
(さとう・むねゆき 歌手)

「宮城県図書館130年のあゆみ —青柳文庫とその志を引き継いで—」

展示期間：平成23年11月3日(木)～平成24年1月25日(水)

明治14年(1881)7月25日、当館は「宮城書籍館」として創立され、今年で創立130周年を迎えました。創立時の蔵書は、仙台藩ゆかりの「青柳文庫」と「養賢堂文庫」がその礎となりました。

「青柳文庫」は、仙台藩出身の商人・青柳文蔵(1761-1839年)が蔵書と運営基金1千両を献上し、仙台藩に開設を願い出たものです。藩は目付2人をおき公開文庫として運営にあたったことから、我が国の公共図書館のさきがけと評されています。

今号の特集では、現在開催中の特別展とともに当館展示室についてご紹介します。



▲戦災で焼失した青柳文庫書庫

特別展 第2部 展示室 西側展示コーナー

◆ 青柳文庫とその志を引き継いで ◆

このコーナーでは、明治14年(1881)、当館創立時の蔵書の礎となった「青柳文庫」を紹介しています。仙台藩出身の商人・青柳文蔵の旧蔵書で「棠陰比事物語」(南宋・桂万榮編纂による裁判実話集)等、法律や医学関係の書物から「明月記」「西遊記」などの読み物まで幅広い蔵書構成となっています。

『六代治家記録 巻之八十』(写本)には、第十二代藩主・斉邦(龍山公)の治世、天保元年(1830)閏三月二十八日条に、青柳文蔵がその蔵書二八八〇部余りと文庫運営の基金を仙台藩に献上し、十人扶持を賜ったことなどが記録されています。

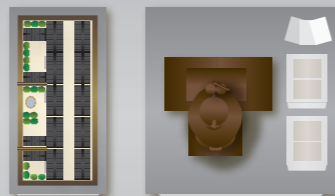


▲青柳文蔵肖像

特別展 第2部 展示室 西側展示コーナー

◆ 青柳文庫とその志を引き継いで ◆

展示室 西側展示コーナー



▲江戸時代 仙台の出版文化コーナー(復元模型)
(左)国分町十九軒の本屋・版元
(右)仙台藩校「養賢堂」の学習用具

宮城県図書館創立130周年・青柳文庫開設180周年記念特別展

「宮城県図書館130年のあゆみ —青柳文庫とその志を引き継いで—」 (展示室見取り図)



▲大槻文彦肖像

特別展 第1部 展示室 正面展示コーナー

◆ 宮城県図書館130年のあゆみ ◆

このコーナーでは、明治14年(1881)の「宮城書籍館」創立から、当館の130年のあゆみを年表と各時代における図書館サービスや資料、人物等を取り上げて紹介しています。

明治時代では、本館第8代館長・大槻文彦(1847-1928年。国語学者、仙台藩出身)について紹介しています。明治25年(1892)6月から同28年(1895)12月まで当館館長を務めました。大槻は日本初の近代的国語辞書「言海」(1889～1891年)を出版しています。

また、「青柳文庫」について「仙台の人青柳文蔵、天保2年に、私費を以て、仙台に図書館を建てて(中略)、衆庶に縦覧せしむ、是れ、我国公開図書館の嚆矢なり。」「(図書館雑誌 第13号)明治44年(1911)11月」と論評しています。



▲「行李」:昭和時代、移動図書館車による市町村への図書貸出サービスに利用していました。

特別展 第1部 展示室 正面展示コーナー

◆ 宮城県図書館130年のあゆみ ◆

展示室 正面展示コーナー



▲「坤輿万国全図」(写本着色)

特別展 第3部 展示室 中央展示コーナー

◆ 宮城県図書館所蔵・国指定重要文化財 ◆

一江戸時代、日本に伝わり模写されたマテオ・リッチの世界図一「坤輿万国全図」は17世紀初め、イタリア人宣教師マテオ・リッチ(中国名/利瑪竇)が中国(北京)で刊行した木版刷りの漢訳世界地図です。

「坤輿万国全図」について、当館は中国で刊行された木版刷り(版本)と、日本で模写された写本(着色)の2点を所蔵しています。平成2年(1990)に国の重要文化財に指定されました。

本特別展では「坤輿万国全図」(写本/着色)を公開しています。鎖国が続く時代、「坤輿万国全図」が伝来し、日本で模写された写本の所在は、現在およそ30点近くが明らかになっています。

特別展 第3部 展示室 中央展示コーナー

◆ 宮城県図書館所蔵・国指定重要文化財 ◆

展示室 中央展示コーナー

常設展 展示室 東側展示コーナー

▼ 本と人の文化史 ▼

常設展 展示室 東側展示コーナー

▼ 本と人の文化史 ▼

このコーナーでは古代中国における文字の誕生から紙の発明、印刷のはじまりと各種資料を展示し、その起源を説明しています。また、中国の出版文化、朝鮮の出版印刷文化について、それぞれ書物の複製や写真パネルを展示しています。その他にも紙のさまざまな利用方法について紹介し、活版印刷の模型で活字印刷の体験をしていただくことも出来ます。

常設展の展示コーナー ▶

展示室ではこれまでさまざまな特別展を開催してきました。今年度開催した展示会についてご紹介いたします。

1 平成23年1月15日(土)～平成23年8月31日(水) 「宮城に眠る玉手箱～のぞいてみよう児童資料の世界～」

この特別展ではちりめん本を中心に、当館所蔵の児童文芸誌、紙芝居などを展示しました。ちりめん本とは、クレープ状に細かく皺を寄せ、柔らかくしんなりさせた和紙で製本された和綴じ本です。開国間もない明治時代来日した外国人にとって、着物の生地のような素材感を持つちりめん本は、日本の昔話や風俗などを題材としていた多色木版印刷の絵入本として、格好の土産となりました。日本文化が流行していたヨーロッパ本土でも、ちりめん本は人気をよび、数カ国語に訳され、輸出や国際共同出版までされるようになりました。

3 平成23年9月6日(火)～平成23年9月30日(金) 「三重の魅力」

三重県立図書館の協力を得て交流展示を開催しました。東日本大震災の発生以降、三重県立図書館は被災者や被災地の図書館への支援を実践されています。今回、三重県立図書館からは三重県に関わる本、松阪牛や真珠など「三重ブランド」のパネルをご提供いただきました。

2 平成23年8月6日(土)～平成23年8月31日(水) 「宮城の魅力再発見」

「宮城に眠る玉手箱」と併設する形で開催しました。当館所蔵の近世の塩竈・松島の様子を描いた絵図や、松島を訪れたブルー・タウトの日記、仙台駄菓子にまつわる資料や白石和紙で編まれた本などを展示しました。また、七夕の時期ということで、来館者に、書いてもらった短冊や、折ってもらった折り鶴を復興七夕とし、展示室内に飾りました。

4 平成23年10月6日(木)～平成23年10月27日(木) 「『ことばのうみ』に集う-宮城県図書館だよりとみやぎゆかりの作家たち-」

平成10年3月に、当館はこの紫の地に移転・開館しました。その記念として、宮城県図書館だより「ことばのうみ」を創刊し、今年の8月に第37号を発行しました。この特別展では、創刊号の高田宏氏から最新号のサンドウィッチマンの二人まで、巻頭エッセイを執筆して下さった方々の著作を展示し、みやぎゆかりの方々の多彩な活動をご紹介しました。

図書館 around the みやぎ

シリーズ第32回 「角田市図書館」

角田市図書館長 佐山 富夫

角田市は約400年前の慶長年間に、仙台藩伊達家の家臣石川氏の城下町として繁栄の基礎が築かれました。角田市図書館はその学問所「成教書院」の由緒深い場所に昭和46年に開館。現在、市民センターと併設する2階建、床面積920㎡、蔵書資料数13万7千点。さらに、市内小学校への巡回貸出のための移動図書館車「かしの木号」及び放送大学角田視聴覚学習室の施設を擁して、その業務を非常勤も含めた12名の職員で生涯学習のニーズに応える最良の市民サービスを目指しています。

本年度は40周年を迎え「子ども図書館」が7月1日に新しく開館しました。本館に隣接した別棟の木造平屋建、170㎡。蔵書は絵本・紙芝居等6千点。木の優しいぬくもりの中で子どもたちが読書の喜びを存分に味わい、生涯にわたる読書意欲形成の基盤が養えるように「賑わいとざわめきのある子ども図書館づくり」に配慮しています。これまでの「静けさ」という図書館マナーよりも、子どもたちの知的出会いの喜びや、より深い感動を率直に表現できる

「ざわめき」を優先させた子ども図書館にしたいと考えています。さらに、幼児からお年寄り、親やボランティアの皆さんもまた絵本を介して交流する賑わいの中で、幼児期からの読書力育成の重要性を確認し、実践していける拠点になればと願っています。



角田市図書館
蔵書冊数：136,908冊(平成22年度末)
貸出冊数：157,266冊(平成22年度末)
開館時間：10:00～18:00(火～金)
10:00～17:00(土・日)
●休館日：月曜日、国民の祝日(土日を除く)、月末日、年末・年始(8日間)、特別整理期間(10日間)
●交通：阿武隈急行線「角田駅」下車徒歩20分
住所：〒981-1505 角田市角田字牛館10
TEL：0224-63-2223 FAX：0224-63-5633
ホームページ：http://www.kakudacity-library.kakuda.miyagi.jp/